

スーパーマーケット販売統計調査資料

2022年4月実績 速報版(パネル270)

3月実績 確報版(パネル270)

(2022年5月20日公表)

調査資料概要

【パネル270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
	一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2022年5月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2022年4月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	94,932,560	100.0%	100.1%	98.7%
食品合計	86,667,975	91.3%	100.2%	98.7%
生鮮3部門合計	32,482,615	34.2%	99.7%	98.1%
青果	13,406,918	14.1%	102.0%	100.7%
水産	8,075,592	8.5%	97.9%	96.1%
畜産	11,000,105	11.6%	98.3%	96.7%
惣菜	10,268,782	10.8%	104.5%	102.7%
日配	19,044,828	20.1%	100.3%	99.0%
一般食品	24,871,750	26.2%	99.1%	97.8%
非食品	6,285,374	6.6%	98.4%	97.9%
その他	1,979,254	2.1%	92.7%	93.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,963,258	43	101.3%	100.5%
関東地方	34,560,760	73	99.6%	97.7%
中部地方	11,586,020	53	102.2%	100.4%
近畿地方	21,345,656	44	97.7%	96.9%
中国・四国地方	9,569,533	34	102.7%	100.5%
九州・沖縄地方	4,907,334	23	104.7%	104.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	620,087	46	98.1%	98.1%
4~10店舗	4,273,775	82	96.1%	96.0%
11~25店舗	8,363,833	51	99.7%	98.4%
26~50店舗	17,742,333	47	101.4%	99.1%
51店舗以上	63,932,533	44	100.1%	98.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	93,000,130	
総店舗数 (店舗)	8,324	店舗平均月商 (万円)	11,405	
総売場面積 (㎡)	13,796,811	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.9	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2022年5月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2022年3月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	96,261,895	100.0%	101.9%	100.6%
食品合計	88,092,105	91.5%	102.2%	100.8%
生鮮3部門合計	33,582,477	34.9%	102.2%	100.7%
青果	13,989,164	14.5%	105.0%	103.6%
水産	8,464,683	8.8%	100.0%	98.5%
畜産	11,128,631	11.6%	100.4%	98.9%
惣菜	10,422,950	10.8%	106.4%	104.5%
日配	18,955,318	19.7%	101.1%	99.7%
一般食品	25,131,359	26.1%	101.4%	100.2%
非食品	6,028,451	6.3%	99.8%	98.5%
その他	2,141,385	2.2%	92.2%	93.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,216,826	43	102.3%	102.3%
関東地方	35,396,473	73	101.8%	100.0%
中部地方	11,718,348	53	103.4%	101.9%
近畿地方	21,240,641	44	100.0%	99.1%
中国・四国地方	9,717,822	34	103.9%	101.3%
九州・沖縄地方	4,971,785	23	104.0%	104.4%

保有店舗数別集計

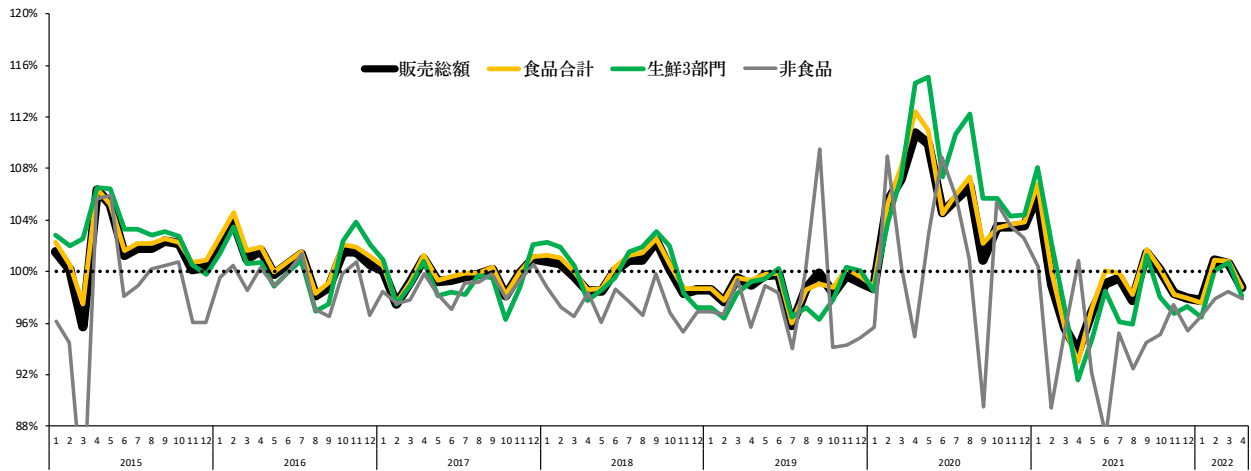
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	617,634	46	97.9%	97.9%
4~10店舗	4,319,347	82	97.4%	97.3%
11~25店舗	8,969,843	52	101.8%	100.5%
26~50店舗	18,201,337	47	102.7%	101.0%
51店舗以上	64,153,735	43	102.1%	100.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	94,147,040	
総店舗数 (店舗)	8,309	店舗平均月商 (万円)	11,585	
総売場面積 (㎡)	13,777,782	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.0	

※売上高は税抜金額

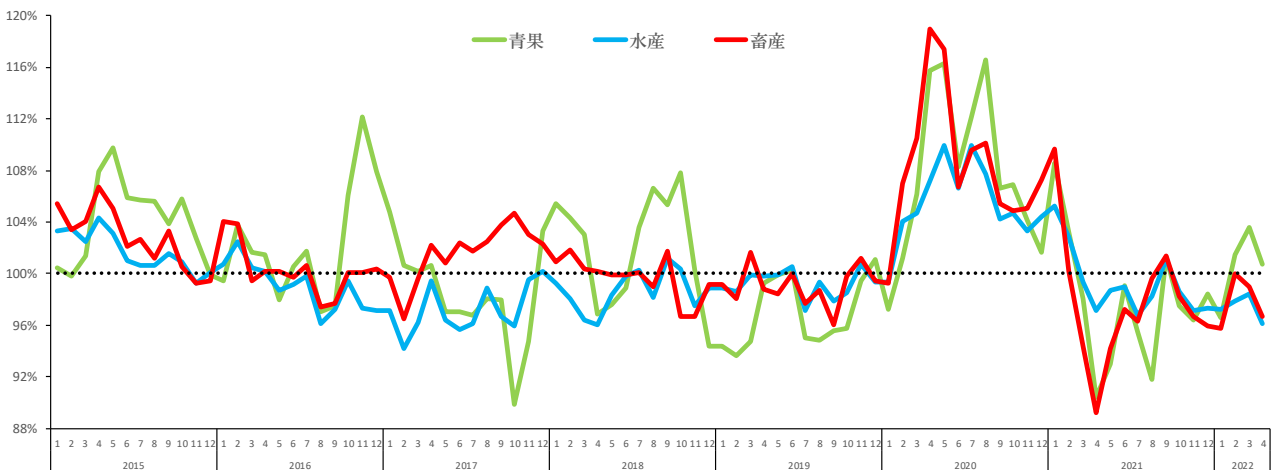
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比(既存店)推移 2015年1月～

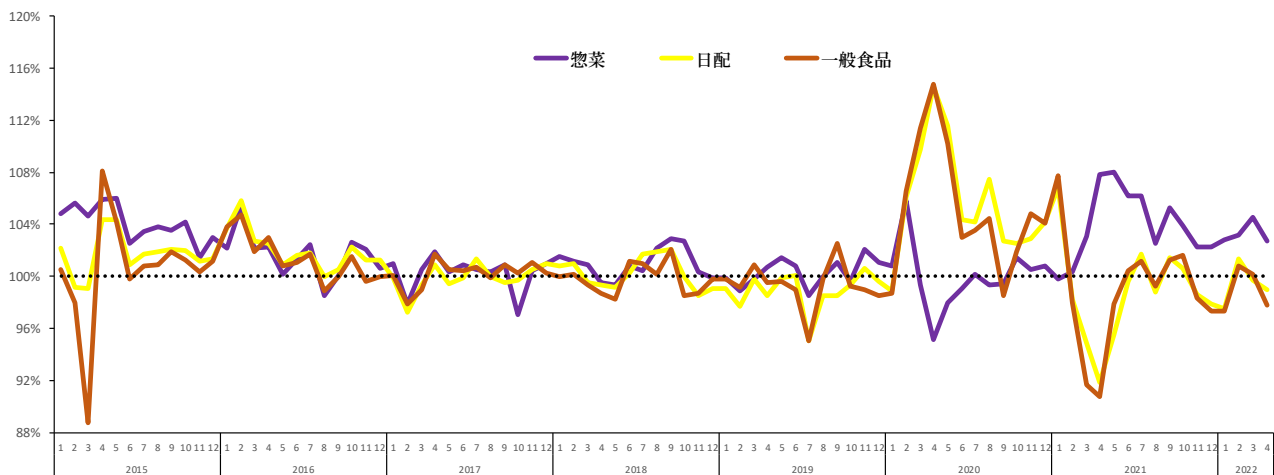
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2022年3月実績は速報版

2022年4月エリア別気候状況

4月の気温：全国的に気温は高く、特に北・東日本でかなり高かった

上旬：北・東日本で高かった。

中旬：北・東・西日本で高かった。

下旬：全国でかなり高かった。□

2021年4月との比較：上旬は西日本で低く、中旬は東・西日本で高く、下旬は全国的に前年より高い気温となった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2022年4月			2021年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	1.2	1.4	2.1	1.0	1.5	-0.7	0.2	-0.1	2.8
太平洋側	1.2	1.4	2.6	0.8	2.1	-0.5	0.4	-0.7	3.1
東日本 日本海側	1.0	1.5	1.4	0.7	0.3	-1.2	0.3	1.2	2.6
太平洋側	0.6	1.7	2.2	1.5	0.0	0.1	-0.9	1.7	2.1
西日本 日本海側	0.3	1.4	1.7	1.8	-0.2	0.8	-1.5	1.6	0.9
太平洋側	0.2	1.9	1.7	1.4	-0.4	0.5	-1.2	2.3	1.2
沖縄・奄美	-0.7	0.6	2.6	1.1	0.2	-0.7	-1.8	0.4	3.3



4月の日照時間：北日本の日照時間はかなり多かった

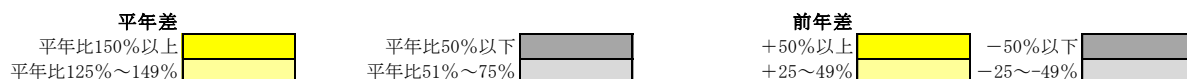
上旬：北・西日本と東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。□

中旬：北日本と東日本日本海側で多かった。

下旬：西日本太平洋側でかなり少なく、東日本と西日本日本海側で少なかった。一方、北日本と沖縄・奄美で多かった

2021年4月との比較：上旬は西日本で多く、下旬は東・西日本で少なかった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2022年4月			2021年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	140	125	129	131	100	124	9	25	5
太平洋側	138	116	121	121	105	122	17	11	-1
東日本 日本海側	158	122	78	146	108	126	12	14	-48
太平洋側	120	87	74	109	111	135	11	-24	-61
西日本 日本海側	177	107	79	131	114	109	46	-7	-30
太平洋側	160	103	62	103	108	121	57	-5	-59
沖縄・奄美	129	101	114	122	127	122	7	-26	-8



4月の降水量：東日本太平洋側ではかなり多かった。一方、北日本太平洋側ではかなり少なかった

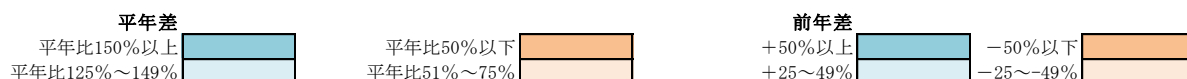
上旬：西日本と東日本日本海側でかなり少なく、北日本と沖縄・奄美で少なかった。一方、東日本太平洋側で多かった。

中旬：沖縄・奄美でかなり少なく、北日本で少なかった。

下旬：東・西日本でかなり多かった。

2021年4月との比較：上旬は東日本太平洋が多く、他は少なかった。下旬は北日本で少なく、東・西日本で多かった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2022年4月			2021年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	54	55	73	77	225	123	-23	-170	-50
太平洋側	32	55	69	63	211	198	-31	-156	-129
東日本 日本海側	9	105	203	63	149	157	-54	-44	46
太平洋側	116	100	247	53	146	103	63	-46	144
西日本 日本海側	1	76	280	34	79	100	-33	-3	180
太平洋側	4	75	262	51	116	157	-47	-41	105
沖縄・奄美	49	10	86	94	31	86	-45	-21	0



スーパーマーケット景気動向調査

2022年5月調査結果（4月実績）
（2022年5月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

5月調査（4月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しとも小幅に悪化

4月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-3.6の42.4、見通し判断は前月から-1.5の36.9となり、現状判断、見通し判断とも前月から小幅に悪化した。

経営動向調査では、肉食需要の落ち着き、価格上昇等による販売点数の減少を受け、売上高DI、収益DIともに小幅なマイナスとなった。一方で、生鮮品仕入原価DI、原料価格等の高騰による食品仕入原価DIは、2011年の調査開始以来最高水準で推移しており、販売価格、客単価は高止まりが続き、来客数DIは抑えられた状況が続いている。

カテゴリ動向調査では、前年に比べ行動制限が緩和されたこともあり、すべてのカテゴリにおいて、前月に比べマイナスとなっており、これまで肉食需要が高かったカテゴリほど影響が大きかった。一方で、引き続き外食を敬遠する動きや、催事・花見需要の回復を受けた惣菜DIは13.9とプラス幅が大きくなっている。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、店舗周辺地域景気判断は小幅な改善がみられたものの、価格の上昇等もあって、景気判断や消費者購買意欲DIは小幅に悪化している。（長期傾向についてはP11参照）

前月は、まん延防止等重点措置が全面解除された後も堅調な肉食傾向が続いていたが、今月は、傾向の変化を指摘するコメントもみられるようになってきている。また、値上げや生鮮価格の高騰が相次いでおり、節約志向を感じるとのコメントも多く、いずれにしても足元では、一品単価の上昇と買上点数減という状況に直面しているのは間違いない。外食への回帰度合い、在宅勤務からオフィス出勤に戻る度合い、節約志向の価格対応訴求か外食代替の美味しく良質な品揃えか、など、消費者の行動変化と、それに伴う食品需要の変化に柔軟に対応することが求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：42.4 (-3.6)
前月：46.0

消費者購買意欲DI
当月：42.9 (-1.9)
前月：44.8

周辺地域 競合状況DI
当月：43.3 (+0.4)
前月：42.9

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：44.5 (+1.3)
前月：43.2

見通し判断

景気判断DI
当月：36.9 (-1.5)
前月：38.4

消費者購買意欲DI
当月：37.7 (-1.8)
前月：39.5

周辺地域 競合状況DI
当月：41.2 (+1.1)
前月：40.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：42.0 (+0.5)
前月：41.5

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-3.9 (-4.9)
前月：1.0

客単価DI
当月：10.1 (-1.2)
前月：11.3

来客数DI
当月：-15.5 (-4.4)
前月：-11.1

収益DI
当月：-4.9 (-6.3)
前月：1.4

販売価格DI
当月：17.1 (+0.3)
前月：16.8

生鮮品仕入原価DI
当月：18.0 (+0.8)
前月：17.2

食品仕入原価DI
当月：21.1 (+1.6)
前月：19.5

カテゴリ動向

青果DI
当月：1.7 (-9.3)
前月：11.0

水産DI
当月：-11.9 (-3.8)
前月：-8.1

畜産DI
当月：-13.3 (-8.8)
前月：-4.5

惣菜DI
当月：13.9 (-0.6)
前月：14.5

日配DI
当月：-4.1 (-2.9)
前月：-1.2

一般食品DI
当月：-7.8 (-6.2)
前月：-1.6

非食品DI
当月：-6.9 (-5.5)
前月：-1.4

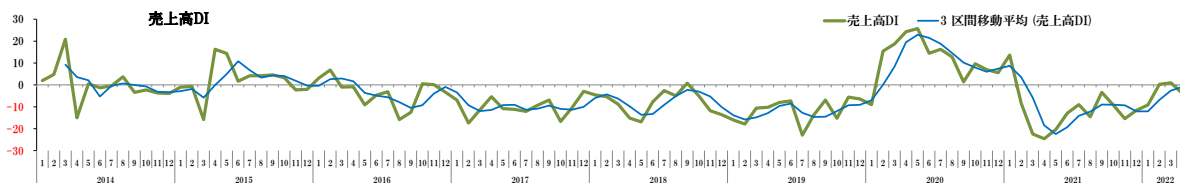
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月低下し、3か月ぶりにマイナス

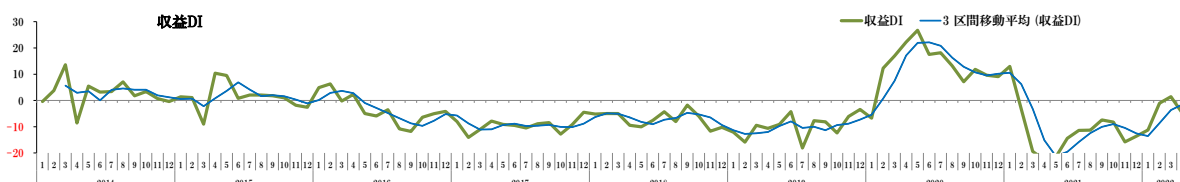
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	4.6	29.7	27.4	33.7	4.6	1.0
売上高 (当月)	7.8	35.3	26.1	26.1	4.6	-3.9



2. 収益DI

当月低下し、3か月ぶりにマイナス

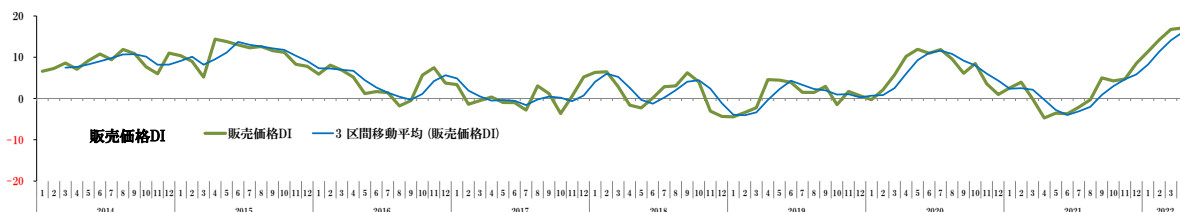
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	5.2	27.7	30.1	30.1	6.9	1.4
収益 (当月)	6.7	36.9	31.5	18.8	6.0	-4.9



3. 販売価格DI

8か月連続で上昇、調査開始以来の最高値を更新

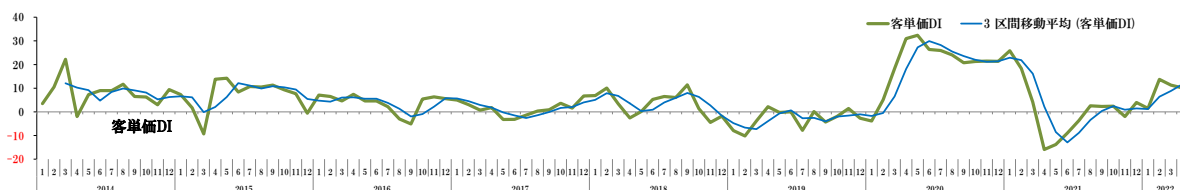
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	1.2	35.8	57.8	5.2	16.8
販売価格 (当月)	0.0	2.6	30.9	61.8	4.6	17.1



4. 客単価DI

二桁プラス水準で高位横ばい傾向

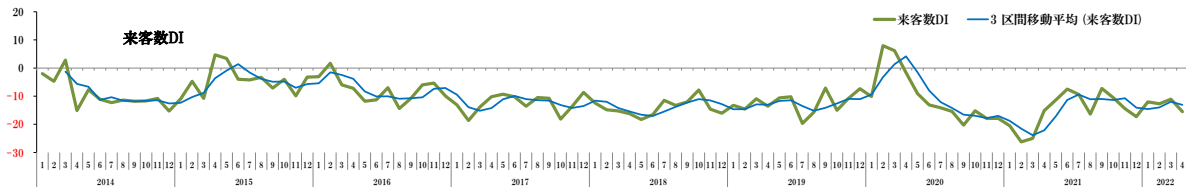
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	13.1	30.9	49.1	5.7	11.3
客単価 (当月)	0.0	15.9	31.1	49.7	3.3	10.1



5. 来客数 DI

マイナス幅がやや拡大、二桁マイナス圏が続く

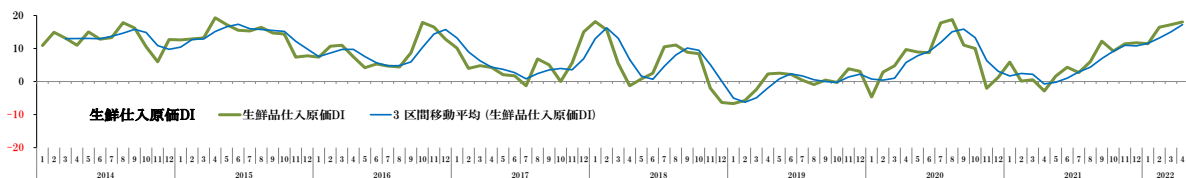
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.6	43.1	33.3	13.8	1.1	-11.1
来客数 (当月)	13.1	47.1	29.4	9.8	0.7	-15.5



6. 生鮮仕入原価 DI

二桁プラス圏でじりじりと上昇傾向

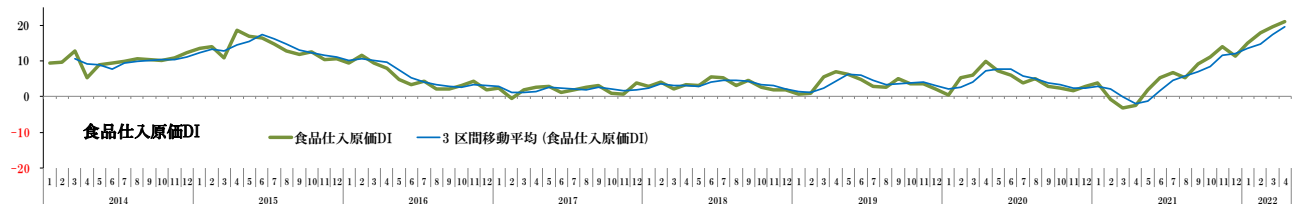
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	4.8	32.3	49.7	12.6	17.2
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	3.4	29.9	57.8	8.8	18.0



7. 食品仕入原価 DI

12ヵ月連続プラス値、調査開始以来の最高値を更新

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.2	3.6	25.1	56.3	13.8	19.5
食品仕入原価 (当月)	0.0	3.4	21.1	63.3	12.2	21.1

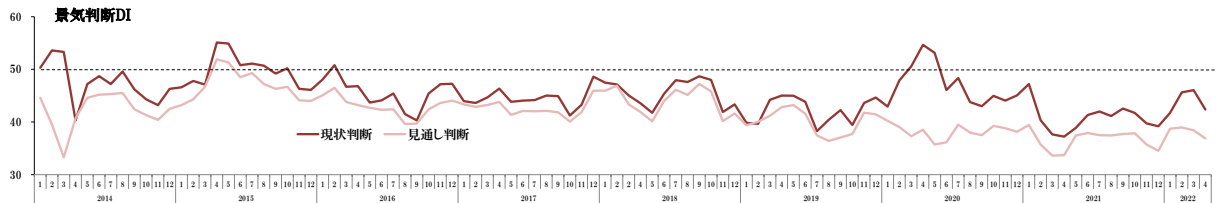


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は悪化、見通し判断は小幅に悪化

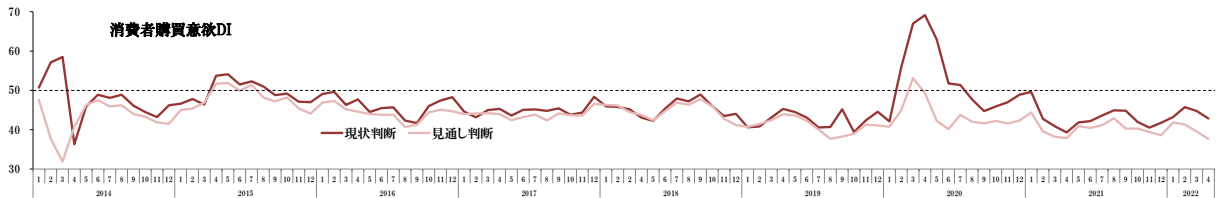
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	2.3	26.6	57.1	13.0	1.1	46.0
【現状】景況判断 (当月)	2.6	36.4	50.0	11.0	0.0	42.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	5.1	41.8	47.5	5.6	0.0	38.4
【見通し】景況判断 (当月)	5.2	48.7	39.6	6.5	0.0	36.9



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断ともに小幅な悪化

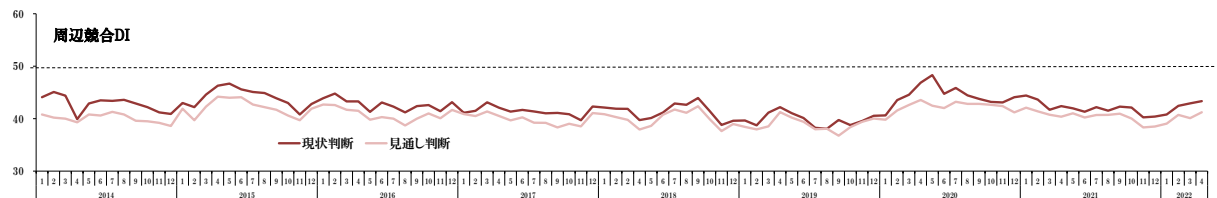
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.8	24.3	64.4	7.9	0.6	44.8
【現状】購買意欲 (当月)	1.9	35.1	52.6	10.4	0.0	42.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.0	37.3	55.4	3.4	0.0	39.5
【見通し】購買意欲 (当月)	3.2	47.4	44.8	4.5	0.0	37.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断ともに前月水準で推移

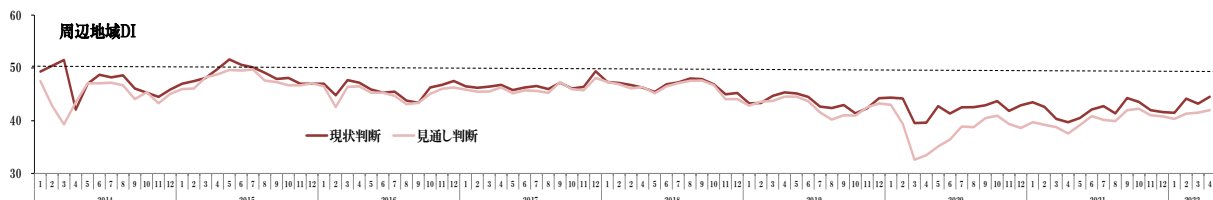
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.3	26.6	68.4	2.8	0.0	42.9
【現状】競合状況 (当月)	2.6	24.0	70.8	2.6	0.0	43.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.5	32.8	60.5	2.3	0.0	40.1
【見通し】競合状況 (当月)	5.8	26.0	65.6	2.6	0.0	41.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は前月と同水準

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.7	25.4	71.2	1.7	0.0	43.2
【現状】地域景気 (当月)	1.3	22.5	72.8	3.3	0.0	44.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.3	31.6	63.8	2.3	0.0	41.5
【見通し】地域景気 (当月)	3.3	28.7	64.7	3.3	0.0	42.0

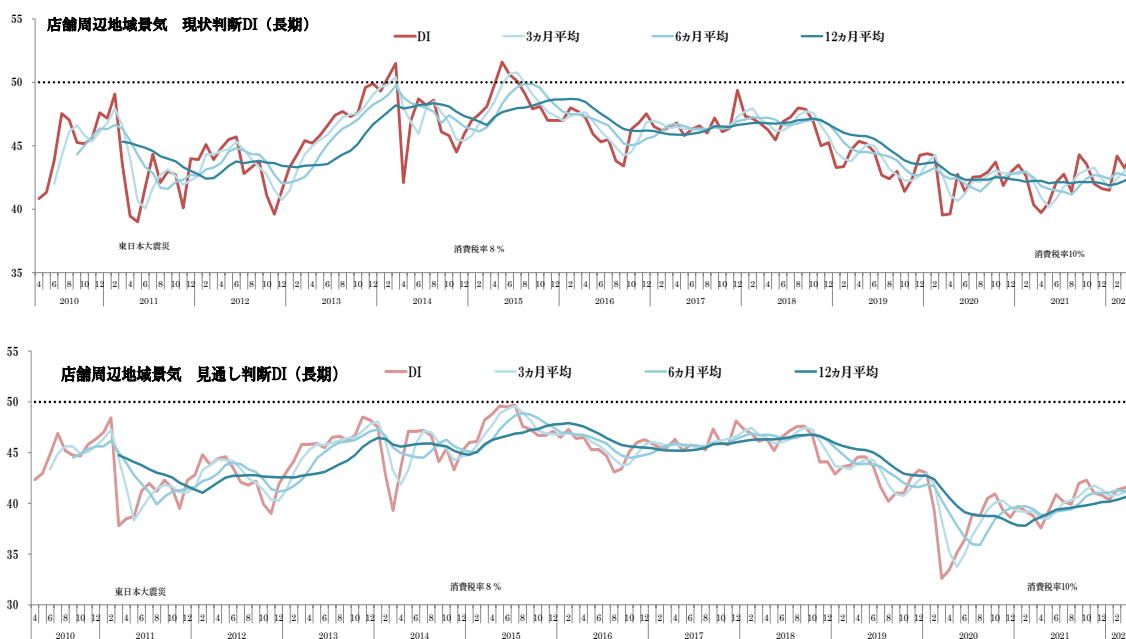


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

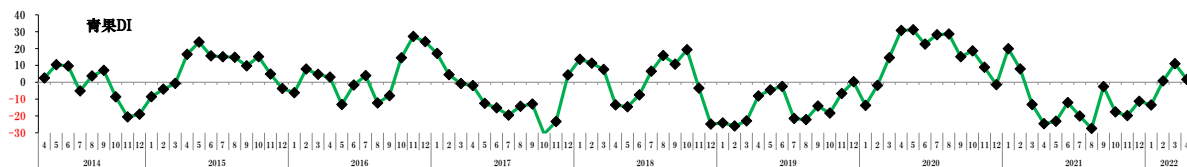
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：1.7（やや好調）

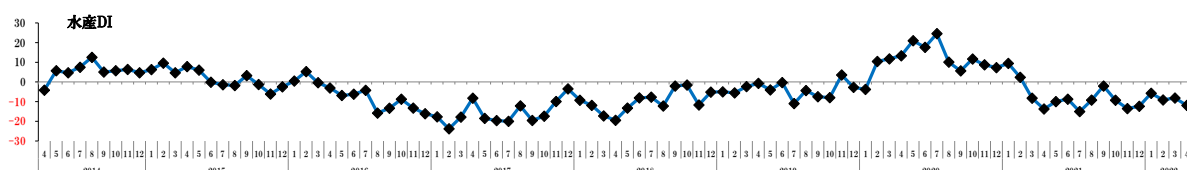
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.2	18.7	28.9	37.3	13.9	11.0
青果（当月）	4.1	32.0	22.4	36.1	5.4	1.7



相場が全般的に前年より高値で推移するなか、前年との感染状況の違いにより、買上点数が伸び悩んだ地域が多かった。販売数量の多いタマネギやじゃがいもをはじめとする土物類、キャベツやレタスなどの葉物の単価が大幅に上昇した。高い気温により、トマトなどサラダ関連野菜が好調に推移した。国産果物では柑橘類が高値で伸び悩んだほか、輸入果物が引き続き不振となった。

2. 水産DI：-11.9（不調）

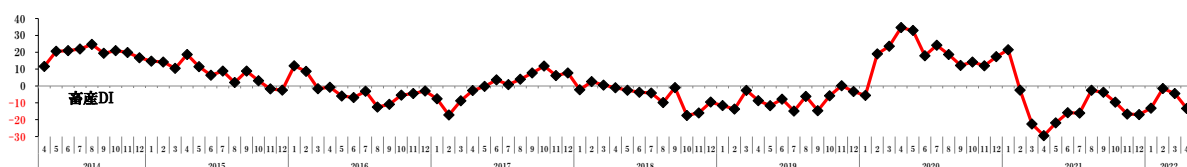
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	9.0	39.2	32.5	13.9	5.4	-8.1
水産（当月）	12.2	46.3	21.1	17.7	2.7	-11.9



前年、緊急事態宣言が発令されていた反動も加わり低迷した。漁船の燃料費高騰、不安定な生魚の入荷、輸入品の高騰など、全般的に相場高となっており、販売に苦勞したという店舗が多かった。肉食需要の減少が大きかった地域では、刺身類や冷凍魚介類で落ち込みが大きくなった。アサリ産地偽装問題の影響もあり、貝類は不振となった。

3. 畜産DI：-13.3（不調）

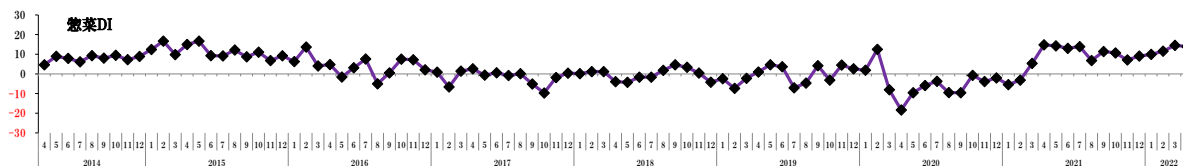
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	8.4	31.1	34.1	22.8	3.6	-4.5
畜産（当月）	15.5	40.5	28.4	12.8	2.7	-13.3



肉食需要の落ち着きにより、全般的に買上点数が低迷した店舗が多かった。輸入肉の価格に上昇傾向が続いており、入荷も不安定とのコメントがみられた。牛肉は、アメリカ産牛肉で価格高騰が続き、販促も打ちにくい状況が続いている。比較的価格が安定している国産豚肉や、相場が落ち着きだした鶏肉は、比較的好調に推移した。ハムなどの加工肉は前年に好調だった反動もあり、伸び悩んだ店舗が多い。

4. 惣菜DI：13.9（好調）

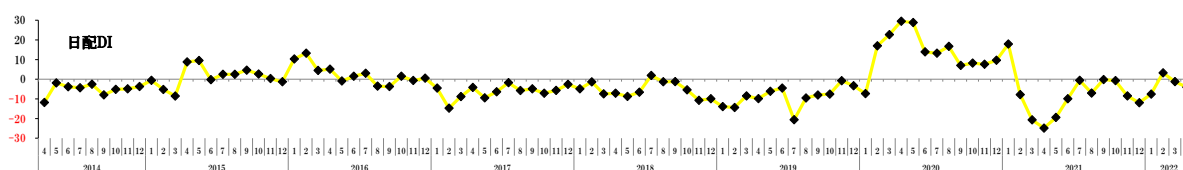
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	0.6	11.4	28.7	47.9	11.4	14.5
惣菜（当月）	2.0	10.9	27.9	47.6	11.6	13.9



引き続き、外食を敬遠する需要の流入を指摘するコメントが多かった。花見需要は回復傾向がみられたが、少人数用が中心となっている。家庭内の昼食需要を背景とした米飯類、また家飲み需要の増加により、焼鳥やつまみ類の動きも引き続き好調となった。調理油類の値上げの影響で、唐揚げやコロッケなどの揚げ物類も好調に推移した。気温上昇によりサラダ関連惣菜の動きがよかった。一方で、食品原料や資材の仕入原価高騰による収益減の懸念が強まっている。

5. 日配DI：-4.1（やや不調）

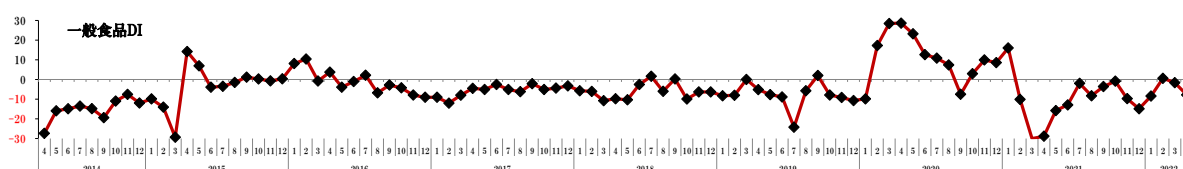
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.6	29.3	38.9	24.6	3.6	-1.2
日配（当月）	5.4	36.7	29.9	24.5	3.4	-4.1



内食需要の落ち着きにより、全般的に買上点数が低迷した店舗が多かった。値上げのあったパン類などは、一品単価の上昇、利便性が定着した冷凍食品の好調が続いている。前年より気温が高く推移した地域の店舗を中心に、アイスや飲料、デザート類の動きが良かった。一方練物や漬物、納豆などの和日配は動きが悪かった。チーズやバターなどの乳製品、機能性ヨーグルトには前年の反動減がみられた。健康志向を背景に、豆乳の動きがよいとのコメントもみられた。

6. 一般食品：-7.8（やや不調）

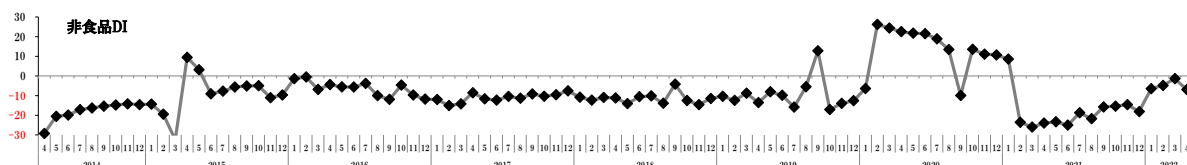
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.0	29.3	35.9	22.8	6.0	-1.6
一般食品（当月）	10.7	36.0	31.3	18.0	4.0	-7.8



値上げされた商品が多く、単価は上昇したものの、家庭内食事需要の変化により、買上点数の減少傾向が多くみられた。高い気温によりペット飲料や涼味商品が好調に推移したが、これまで好調だった保存性の高い食品（カップ麺、パスタなどの乾麺類、レトルト類、缶詰など）は、前年からの反動減が大きかった。米類は相場安でも点数が伸び悩み、不振が続く。値上げのあった油や調味料は売上を確保した店舗もみられるが、販促が打ちにくいなど影響を指摘するコメントもみられた。地域差もあるが、家飲み需要に支えられてきた酒類や珍味などのつまみ類の伸びには落ち着きがみられた。

7. 非食品 DI：-6.9（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	7.3	26.7	36.4	23.6	6.1	-1.4
非食品（当月）	10.4	34.0	34.7	14.6	6.3	-6.9



引き続き感染防止意識の高い傾向が続き、マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品の販売は堅調な店舗が多い。一方で、紙コップや割り箸など行楽用品に回復傾向がみられた。ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品や家庭用洗剤は、好不調の判断がわかれている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2022年5月調査（4月実績）キーワード TOP3

1. 行動制限緩和による需要変化と買上点数の減少
2. 仕入価格高騰と店頭価格上昇
3. 高い気温

（参考）2021年5月調査（4月実績）キーワード TOP3

1. 前年緊急事態宣言下からの反動
2. 青果相場安
3. 周辺競合激化

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

4月実績速報版 154社
 3月実績確報版 177社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp